

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会 無所属会派所属議員

〈編集発行〉

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361(fax 兼用)

市議会議員 吉田つとむ

yoshidaben@gmail.com



伝統工芸(輪島塗)の保存と伝承と生活①

しばらく前の話になるが、輪島塗など伝統産業の再建後押し、国が職人・工房支援…道具の修理・購入費を補助(読売新聞 2024/03/03 05:00 能登半島地震記事)が決まり、大事な伝統工芸を支援すると言う。また、かのひろゆき氏も輪島塗の貴重さを述べ、その保護が必要だと述べていたと思う。それぞれに「良いことだ」と思う反面、果たして、それはどうだろうと思う。

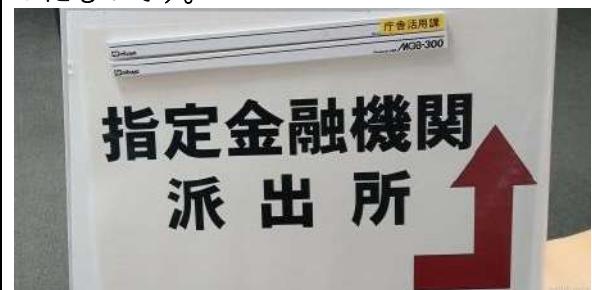
輪島塗は、この間、消費が落ちて縮小産業であった。能登半島地震で輪島塗の工房が破壊され、製品自体の生産が棄損されたわけであり、あるいは伝承製品を保存、あるいは業界の技術や製作者の技能を保護しなければならないという発想だろうか。もちろん、その技術や業界が地震で棄損したものであれば、震災復興の一環で物や工房の再現を目指すべきだが、この間の衰退 자체を止め、復興させたいと言う願いについては、果たしてどうであろうか。当事者視点に変えればどうなるか、収入は生活の維持、発展に対応できるかが当事者にとっては重要であるという原点を忘れるべきではないだろう。

皇室に伝わるものや、国家が管理するものであれば、別だが、伝統工芸の産業であるから保護するべきだとすると、次回に果たして?と問うてみたい。



監査請求に対応、前回の裁判に基づく返還

2024年11月に町田市議会の大半の会派に対する政務活動費(2018-2022年度)の監査請求が行われ、当時の会派(保守の会)において収入(公費+自己負担金)支出項目金額の再調査の確認を行い、届け出書類の修正を行い、本年1月15日までに必要な金額の返還を行いました。当時の保守の会の2018-9年度分の使途分が問題にされたもので、その前期の会派(保守連合)の政務活動費使途分(2014-2017年度)の裁判を通じて、判決、確定したものに対応した金額となつたものです。



まず、監査請求人からは、燃料費と通信運搬費、及び事務費の支出額の半額が不当として返還を求められましたのですが、そもそもその政務活動費の収入分(公費+自己負担金)から返還すべき(前回の裁判結果に応じて)金額を算出し、所管の議会事務局に照会して、1,625,537円の監査請求金額に対して836,013円の返還手続きを行いました。自己負担金が2年度分ともあったことで、その分を差し引いて計算した結果、監査請求額の約半分の金額となりました。

なお、2020-2021年度の「保守の会」の分と現在の会派(2022年度以降、無所属-3人で構成)政務活動費使途分に対しては、監査請求はありませんでした。町田市議会でこの間の政務活動費使途の条例、基準の一連の改正と改善で監査請求に入らなかつたと思います。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

◎支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

◎吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる 町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ

「推し活」と、その事業化を図る企業の姿

AIによる概要では、「推し活とは、自分にとって特別な存在である「推し」を応援する活動です。アイドルやキャラクター、三次元の人物など、さまざまな対象がいます」と出ました。東京ビックサイトの「ライフスタイル Week」では、この「推し活」を事業化している企業が数十社も出展していました。

タレントでは、AKB48が公演の観客動員とグッズの販売で大成功した例がありますが、これはファンから見ると、代表的な「推し活」であったと思われますし、ディズニーファンも施設を何度も訪れること、関連グッズを様々に買い求め、身にまとうことでファンであることを内外に示すことが「推し活」のスタイルになっているのでしょう。それ以外に、タレント、アイドルは無数に存在し、それぞれにファンの形成を機会あるごとに追及しています。



上の写真はコンサート会場で場内が暗くなった時、多数のファンが光るライトを左右に振り、一体感を生み出すものです。タレントと提携し、そのキャラクターなどをセットにして販売するものです。タレント、アイドルとファンをつなぎ、いかに身近な存在となり得るグッズを提供できるかが事業者の役割でした。政治も最近その傾向が現れています。



ブログ



個人HP

メールは
左記を読み込
して送信



好評インターンシップは、第55期生の1名がスタート

化粧品販売とその形態、あるいは関連パーソン製造業とその販売

KOSUME Week2025TOKYO: 東京ビックサイト

化粧品の販売というと、今はドラッグストアも一般化していますが、旧来はデパートで化粧品会社の美容部員がその能力の限界まで知識と営業力を使って消費者に販売するイメージが定着していました。つまり、国産と外資がその総力戦を展開してきました。その店頭販売では（特定メーカーの看板を掛けた）化粧品店が各地にありました。

それ以外の販売形態では、営業社員による外販の訪問販売を事業化した大小メーカーがあり、それとはまた別に、メーカー専属の美容サロンに消費者を集めめるメーカーもありました。後者では、シャンソン化粧品が紹介ブースを出していました。創業80年になるとのことでしたが、激動の時代を乗り越えた企業にホットしました。

化粧品の製造では、OEM(ODM)で受注をする体制を取った企業が、様々な部門で数百社が出展していました。中国（及び、韓国、台湾）の企業がその原料、製品、容器、パッケージまで、あらゆる企業が出展していました。



液体の化粧品の容器はキャップか、ポンプになっていますが、容器のポンプを専業で造る企業：(株)丸一も出展していました。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年1月末までに111名が参加しました。

◎ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎第55期（2025年春季）インターンシップは、1名参加でスタートしました。